

2024年度 看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制整備計画評価

	目標	取り組み	評価	達成度	
1	多様な働き方を推進し、人的資源を確保する	①師長との定期面談1回/月以上の実施	11月の定期勤務評価面談以降できていないが、4月から10月までは実施した。	50%	70%
		②離職防止策として、各部署1件以上の業務整理を実施	提案される防止策が”業務整理”の類とは離れた内容が多く、業務整理は思うように進んでいない。 看護職員の有給取得に関し、単年の有給発生数2,527日に対し、単年の取得数1,777日となっており、有給取得率70.32%であった。	50%	
		③計画的な人員の確保	・新人看護師9名の採用 ・看護補助者26名の採用 ・中途看護師5名の採用 ・スマイルサポーター7名の採用 ※採用数は目標を上回ることができた。一方で退職率（看9.2%、補33%）が高く、人員の確保という面では看護要員の定着が課題である。	80%	
		④より充実した院内保育環境の整備	保育専門業者による365日保育を実施。充実した保育制度を整備。 また保育所は日勤帯のみの稼働であるが、夜勤入り/明けの預り入れを実施や、職員の孫にあたる児の受入れなど、変則的な看護職員の勤務や、当院の職員の実情に即した育児サポートを実施	100%	
2	適正配置により看護部全体で看護を提供する	①入院支援室の稼働による予定入院患者の入院時対応の時間的負担軽減	入院支援室対応105件、データ入力のみ377件、予定入院に占める入力割合は平均で55%（R7年1月時点）	55%	78%
		②育児支援として、急な欠員部署（育児の対象となる児の体調不良など）があった場合に、他部署から人員的な応援ができる体制の整備	看護部長・各師長との朝礼の中で情報共有し、適切に采配し対応できた	100%	
		③中途入職者用の教育計画バスの整備と活用	バスの整備・作成ができた。これを活用していくことで、より実情に合わせて修正・見直しが必要。継続的に検討したい。	80%	
3	看護補助者・他職種と連携したタスクシフト/シェア	①スマイルサポーター（※1）の活用と看護補助者の業務整理によって、看護師と看護補助者のタスクシフト/シェアを図る	R5年度に新設したスマイルサポーターは日々業務拡大と人員増を図っており、看護補助者→スマイルサポーターへのタスクシフトが進んでいる。またこれにより看護師→看護補助者のタスクシェアとして手術・検査への患者搬送をはじめとした看護師の業務負担軽減を図ることができた。	80%	80%
		②外国人看護補助者の確保・活用のための教育支援	外国語（母国語）による介護技術をeラーニングを用いて習得できる環境を整えている。技術の活用面でのフォロー等に課題があると感じる。 また言語面でのサポートは管理団体や登録支援機関に任せてしまっている。	70%	
		③看護補助体制加算50：1の確保	必要な人員数を配置し、50：1を確保した。	100%	
		④他部門と協働したタスクシフト		70%	
		④ー1 各病棟の担当薬剤師を決め、持参薬の管理及び病棟配置薬の管理。与薬等の準備を含む薬剤管理業務や抗がん剤の投与に対する積極的な支援を行う。	薬剤師の新人教育と育休者の業務負担、また、稼働率の上昇に伴い薬局内の業務も多忙となり病棟業務が不十分。	30%	
		④ー2 医療安全の確保のためにも、医療機器の管理を中央化し病棟や手術室等への臨床工学技士の積極的な介入による機器のメンテナンスや点検作業を重点的に実施。	実施。内視鏡検査・内視鏡し手術に関し、研修未修了の臨床工学技士が複数おり、看護部の要望に応えられていない部分がある。来年度は改善できるように研修受講等の準備を行う。	70%	
		④ー3 栄養管理室にて、低栄養状態の患者を早期抽出し対応策を提案。	実施。看護師が気付くこと、管理栄養士が気付くこと、双方の視点から気付くことを情報共有し、対応策を検討する場をも受けている。来年度も継続して実施する。	80%	
		④ー4 放射線技師による造影剤のルート接続及び整形外科手術の術後X線撮影を手術室にて実施する	造影剤のルート接続は運用方法を本年度に完成したまでに留まり業務開始に至らなかった。手術室での術後X線写真の撮影は、必要・要望に100%応えることができている。	70%	
4	効率的な働き方を考え業務を改善する	①時間外労働（残業）軽減への取り組みを各部署1件以上実施	会議時間を1時間いないに短縮することと、終礼にて残務を確認する取り組みを実践したが、定着にはいたらなかった。	50%	75%
		②入院セットの導入	令和6年10月にアメニティ（入院セット）導入。看護職員の物品管理業務の負担軽減を図った	100%	
5	スペシャリスト（認定看護師）の処遇改善	①認定看護師資格取得助成制度規程を利用した取得時の支援	法人独自に取組む制度規程を利用し、取得の人選や声掛けを行ったが、新規に資格取得を目指す職員の掘り起こしには至らなかった。	50%	80%
		②認定看護師資格取得助成制度規程内の認定看護師資格の維持のための助成制度を利用した継続・更新の支援	2名の認定看護師双方とも、規程内にて認められた出張回数を利用し、資格継続・更新のための支援を行うことができた。	100%	
		③週1回の活動時間の確保	2名の認定看護師双方とも、週1日以上活動時間を概ね確保できている。	90%	